

なまえ

先日、ガラクタを整理していたら、10年ぐらい前に書いた文章が見つかりました。私の名前に関したものです。ちょっと気に入っている文なのでのせます。

「耕二（こうじ）さんですか。次男さんなのですね。」子どもの頃からよく言われてきましたが、私は長男です。

私は、「耕二」という名前がとても気に入っています。「耕す」という文字もさることながら、両親がこの名前を付けてくれた「思い」がとても気に入っているのです。

小学生の頃、一度だけ母親に質問したのを覚えています。和裁の内職をしている母親の横に座り、「お母さん、兄さんや姉さんがいないのに、何で耕二の「二」という字をつけたがや。」

母は答えました。「お父さん、お母さんは、学校も出ていなけど、おまえにはがんばってもらいたい。でも、1番になると2番の者に追い越されないかといつも心配しないといけない。2番になって、1番を目標にがんばり続けた方がいいのではないか。」と。

私も40歳を迎え、両親も70歳前後の年になりました。いまだに「1番」になったことはありませんが、ゆとりを持ちながら、自分なりに目標を持って何事にも取り組むことの大切さは、両親の思いによってつけられた名前とともに自分の体の中にずっと存在していると感じています。

私も子供に命名しましたが、子への親の思いがあるのですね。